第8回　役員訪問　聞かせてください

聞き手／ 常任理事　藤 井 美 穂

・生 年 月 日　昭和26年6月27日
・出　生　地　旭川市
・出 身 大 学　札幌医科大学
　　昭和52年卒　脳神経外科

●スピード感が大切

藤井：昨年は北海道医師会で医療政策部長としてご活躍、さらに日本医師会の常任理事に就任されました。昨年はどんな一年でしたか？

中川：日医での毎日はあっという間でした。こんなに時間の流れを速く感じたのは初めてですね。この8カ月は人生最大の短さだったかな。

藤井：日医で担当されているお仕事は？

中川：現在、日医ニュース等を発行する「広報」、ホームページや医師会ネットワークを管理する「情報企画」、10年後の日本の医療と介護をグランドデザインする「医療政策」、医療事務の効率化・情報の標準化により医療の向上を目指す「日レセ（ORCA)」と「調査統計」「医学図書館」を兼任しています。

藤井：愛読書は『各種資料』とうかがいました（笑い)。

中川：次から次と新しい資料が出てくるので大変です。最近ようやく要点をピックアップするコツがつかめてきたかな。

藤井：先生は毎週水曜日の定例記者会見もご担当ですね。

中川：自分の言葉が公式なものとして伝わるのが記者会見。説得力のある情報を素早く提供できるようにスピード感を大切にしています。普段から話し慣れておくことと度胸も必要です。

●広報の持つ影響力は大きい

藤井：日医には都道府県医師会などから様々な意見が寄せられると思いますが・・・。

中川：批判を受け止めるのが執行部の役目といえるでしょう。唐澤会長の前向きな我慢強さから多くのことを学びました。

藤井：道医報へのアドバイスは？

中川：日医に来てからのことですが、「道医報の『KEYWORD』読みました」とよく声を掛けられました。会報は予想以上に多くの人に読まれていることを再確認して、即応性に重点を置くようにしてはどうでしょうか。

●毎朝のランニングが発想の源

藤井：少し痩せられましたか？

中川：ダイエットを心掛けていますが少しです。記者会見で人前に出なければならないから（笑い)。

藤井：どのようなダイエットですか？

中川：毎朝6時前には起床して、皇居一周をランニングしています。お酒を飲む機会も多いのですが、自然に眠くなってくるので2次会は勘弁願ってます。

　皇居一周は約6km。当初は走りきれず、それが30分台で走れるようになり、今では26分くらいで完走。

　私は祝田橋から二重橋、竹橋を通る反時計回りに走るのですが、毎朝走っていると外国人の方も多いし、常連の方ともすれ違います。

　コース中に麹町警察署や丸の内警察署など派出所が4カ所あるのですが、夏場

北海道医師会　常任理事　中川俊男（なかがわ　としお）

にはお香のかおりが漂ってくる派出所もあって風情が感じられます。

藤井：ランニングは昔からのご趣味ですか？

中川：走ることは一人でできますから、集団行動が苦手で、わがままな私には合っているのかもしれません（笑い）。

かつては札幌マラソンにも出場しました。その練習で一週間に50km 走ったり、若い頃は一日に20km 走ったり、当時は1km 4分のペースでした。

走ることで私の場合、たくさんのアイデアが浮かぶんです。新さっぽろ脳神経外科病院で始めた世界初の「脳ドック」もランニング中にひらめいたんです。

●医師会のイメージアップが急務

藤井：日医のTVCMは先生のアイデアですか？

中川：はい。平成18年10月7日から、認知症のお年寄りを描いた「高齢者医療」編、10月21日から、いじめと校医のあり方を問う「学校保健」編、11月4日から、医師のおごりにメスを入れる「医師の心ない一言」編を放送しています。

アンケート結果で「国民の8割は医師会に無関心、無知、嫌い」であることが分かりました。日医の広報として国民に少しでも興味を持ってもらい、イメージアップを図るため企画しました。

主治医としては評価するが、医師会となると「既得権益を守る圧力団体」という印象を受けていたり、無関心の人がまだまだ多いのが現実です。自分たちの考えを多くの国民の方々に聞いていただくには、回り道かもしれませんが、まずは関心を持ってもらうことが一番の近道だと考えています。唐澤会長は日医の活動も、日常診療も同一次元のものとおっしゃってますが、私も同感です。

インタビューを終えて

毎朝、皇居を一周するエネルギッシュな先生　　常任理事　藤井美穂

余暇は「毎朝のランニング」とおっしゃる中川先生。激務でしょうが、ランニングでリフレッシュして日医での活動を頑張っていただきたいと思います。

また先生へのインタビューを通して、道医で広報を担当することの責任の大きさを再認識させていただきました。